

【講演】東京・首都圏アクセント研究の課題¹

佐藤 亮一

(国立国語研究所名誉所員)

佐藤亮一です。どうぞよろしく申し上げます。

今日は私が最も関心のある分野のテーマで、しかも非常に新しい先進的な研究が発表されるということですので大変楽しみです。私は、自分が長年続けてきた東京・首都圏アクセントの調査研究の一部を紹介して、今後皆さんにしていきたい研究の課題についての希望を申し上げたいと思います。

1. 東京アクセントの変化 — 『東京語アクセント資料』 (1985) から

最初に、私どもが多くの研究者の方々のご協力を得て調査し、その結果をまとめた『東京語アクセント資料』(以下『東京ア』)についてお話ししたいと思います。この調査は、1982年から3年間かけて、東京都区内生まれ育ちの21名の方々、若い方からご年配の方まで、山の手と下町、男性と女性があまり偏らないように選んで、約1万2,800の単語を発音していただいた結果を表にしたものです。

この資料を見ると非常に多くの単語に東京アクセントの変化が読み取れます(表1)。例えば「青葉」という単語について見ますと、ア]オバという1型とアオ]バという2型が調査当時発売されていたほとんどの辞典(『新明解国語辞典』『日本語発音アクセント辞典』『明解日本語アクセント辞典』『全国アクセント辞典』)に記載されているわけですが、私どもの調査では2型はまったく出てきません。東京ではアオ]バからア]オバに変化して、その変化がほぼ完了に近づいているということが分かるわけです。また「(電話の)ダイヤル」の場合、すべての辞典に1型と0型が出てきますけれども、1型は私どもの調査ではまったく発音されていません。

また、辞典に載っている型が最高年齢層にだけ出てくる単語もあります(表2)。

例えば「荒物」はすべての辞典に2型が載っていますが、2型は最高年のSさん(1911年生まれ)だけが発音しています。「ライオン」はすべての辞典に1型と0型が記載されていますが、『東京ア』では最高年齢層のSさんとRさん(1920年生まれ)だけが0型と1型の両方を発音しており、他の方々は0型のみです。「荒物」の2型や「ライオン」の1型は東京都区内ではほとんど滅びかけていると言っていい型だと思います。

次に、私どもの調査で年齢差が読み取れるものを示します(表3)。「荒海」の場合、辞典にはアラウ]ミという3型しか載っていませんが、『東京ア』には、0型(平板型)がたくさん出てきます。0型は全年齢層に見られますが、3型は中・高年齢層の方々が発音しています。つまり、

¹ 本稿は、共同研究発表会(2012年7月22日(日)、於: 日本大学文理学部)における講演の録音をもとに原稿化したものである。

「荒海」は3型から0型に変化しつつあると判断されます。

「熊」は、2型のクマ]が1型のク]マに変化しつつあることはかなり知られている話だと思えます。若いアナウンサーはク]マと言わないように注意しているそうです。1型のク]マは、私どもの調査では若年層にしか出てきません。アクセント辞典では1型のク]マは『明解日本語アクセント辞典』だけが「新」という注記を付けて2型と併記しています。

辞典には出ていないアクセント型が『東京ア』では大量に出現する例もあります(表4)。例えば「大病」は、辞典は1型のタ]イビョウだけを載せていますが、私どもが調査では1型のほかに0型が多く発音されています。

以上、多くの単語に見られる東京アクセント変化のごく一部の例を示しました。

私どもが調査した約1万2,800語の単語を全部分析すれば東京アクセントの体系的な変化の流れが浮かび上がってくると思うのですけれども、残念ながら私はまだやっておりません。ただごく一部の200か300の単語について分析した例をお見せします。

表5を見ると、全体的には有核型から無核型に変化するものが多いことが分かります。また、いわゆる平板化が多いことは事実で、例えば4型から0型に変化しているものの例を挙げると、「合札」「網打ち」「家柄」「家元」「生け捕り」「生けにえ」のように、4モーラの和語が多いということが分かります。

表5の1.3に示したように、末尾から3拍目にアクセント核がある型から平板型になっているものの例を挙げると、1型から0型に変化しているものには、「遺訓」「遺跡」「果敢」「華燭」「佳節」「起伏」「御苑」「居城」など、イ+クン、イ+セキ、カ+カンのように1モーラ+2モーラという語構成を持っている3モーラの漢語が多いように見えます。

しかし、すべての単語が平板化しているわけではありません。それほど多くはありませんが、無核型が有核型になっている例も見られます。例えば昔は0型であったものが1型に変化している例としては、「感知」「関知」「個性」「直訴」「上訴」「書道」「私立」「演歌」「伝播」「ラジオ」などがあります。

頭高型化の例としては、2型から1型に変化した例として、「悪意」「彼方(あなた)」「決意」「決議」「国技」「作為」「竹刀(しない)」「支配」などの例があります。

このように『東京ア』のごく一部を分析してみたわけですが、1万2,800の単語全体の分析には手を付けていませんので、どなたかにやっていただきたいと思っております。

見出し	語形	新N明全 明H解國 解Kアア	XY 山下 五二	A 六	B 五	C 五	D 五	E 四	F 四	G 三	H 三	I 三	J 三	K 三	L 三	M 三	N 三	O 三	P 二	Q 二	R 二	S 一	
1 青藤	アオバ/ガ	2222	11	11111111111111111111	1																		
2 怒る	イカル/コトダ	2222	22	22222222222222222222	2																		
3 渦(動)	イタチ/オ	0000	00	00000000000000000000	0																		
4 一群	イチヂン/オ	0000	00	00000000000000000000	0																		
5 炎熱	エンネツ/ニ	0000	00	00000000000000000000	0																		
6 置き所	オキドコロ/モ	0000	00	00000000000000000000	0																		
7 音曲	オンギョク/ガ	3333	00	00000000000000000000	0																		
8 合戦	カツセン/ガ	0000	00	00000000000000000000	0																		
9 茶道具	チャドグ/オ	2222	22	22222222222222222222	2																		
10 敵意	テキイ/オ	2222	11	11111111111111111111	1																		
11 転転	テンテン/ト	0000	00	00000000000000000000	0																		
12 日夜	ニチヤ/オ	1111	11	11111111111111111111	1																		
13 後作	アトサク/ニ	2000	00	00000000000000000000	0																		
14 阿呆	アホー/ダ	1212	22	22222222222222222222	2																		
15 落度	オチド/ガ	2121	11	11111111111111111111	1																		
16 駆け引き	カケヒキ/ガ	2202	22	22222222222222222222	2																		
17 空耳	ソラミミ/ダ	2220	00	00000000000000000000	0																		
18 ダイヤル	ダイヤル/オ	1000	00	00000000000000000000	0																		
19 嘘	ツバ/オ	2121	11	11111111111111111111	1																		
20 手切れ金	テギレキン/オ	3000	00	00000000000000000000	0																		
21 土鍋	ドナベ/デ	2000	00	00000000000000000000	0																		
22 日時	ニチジ/オ	2121	11	11111111111111111111	1																		
23 パーテン	パーテン/オ	1000	00	00000000000000000000	0																		
24 ハードル	ハードル/オ	0010	00	00000000000000000000	0																		

表1 馬瀬・佐藤 (1989)

見出し	語形	新N明全 明H解國 解Kアア	XY 山下 五二	A 六	B 五	C 五	D 五	E 四	F 四	G 三	H 三	I 三	J 三	K 三	L 三	M 三	N 三	O 三	P 二	Q 二	R 二	S 一	
1 黒物	アラモノ/オ	2220	00	0000300030300303002	0																		
2 胃液	イエキ/ガ	1000	00	00000000000000000000	0																		
3 家路	イエツ/オ	2220	00	00000000000000000000	0																		
4 意外	イガイ/ニ	1010	01	00000000000000000000	0																		
5 いきり立つ	イキリタツ/コトダ	2444	44	4444444404404444442	4																		
6 賢児	イクジ/ニ	1111	11	11111111111111111110	1																		
7 隠心地	イゴチ/ガ	0000	00	00000000000000000002	0																		
8 懐か入る	イタミイル/コトダ	2424	42	444444044440444442	4																		
9 一室	イチザイ/ニ	2022	00	00000000000000000002	0																		
10 一級品	イクキョウヒン/ダ	0000	00	00000000000000000000	0																		
11 儲賈い	ウカイ/オ	0011	00	00000000000000000001	0																		
12 音信	オンシン/ガ	1111	11	11111111111111111111	1																		
13 学位	ガクイ/ガ	1111	11	11111111111111111111	1																		
14 眞の子(の横線)カノコノ		2122	11	110010101010111112	1																		
15 堪能	タンノウ/ダ	0000	00	00000000000000000001	0																		
16 治水	チスイ/ニ	0000	00	00000000000000000000	0																		
17 特使	トクシ/オ	0000	10	11111111111111111110	1																		
18 ドレス(女)	ドレス/オ	1111	22	11111111111111111112	2																		
19 群	ハンケ/ニ	0000	30	33333333333333333303	3																		
20 アルバム	アルバム/オ	1000	00	00000000000000000001	0																		
21 フライ(野球)	フライ/オ	2000	02	000000000000000000022	2																		
22 ライオン(動物)	ライオン/ガ	0000	00	00000000000000000000	0																		

表2 馬瀬・佐藤 (1989)

見出し	語形	新N明全 明日解國 解Kアア	XY 山下 五〇	ABCDEFGHIJKlmnoprs 下下下下下下下下下下 六五五五五五五五五五 二九八八三〇七三三九 五〇九〇九〇九〇
1 大柄	タイロー/オ	1111	01	0000101001100111
2 高み(の見物)	タカミ/ノ	111	21	000001001000101001
3 竹光	タケミツ/オ	222	02	00000000200200000
4 高低	タカヒク/ガ	1111	11	02201110111100221
5 たばこ盆	タバコボン/オ	3333	03	00000333033303333
6 囁し討ち	ザマシウチ/ニ	3333	00	000000300003330333
7 竹馬の友	チクバノトモ/ダ	25 20	212	112521112215212125 21 11 21 11
8 地点	チデン/ニ	2220	12	112201010111000111
9 チャンネル	チャンネル/オ	0002	1	2
10 喋む(口を~)	ツグム/コトダ	1111	01	00000010000000001
11 つっじ(雑物)	ツツジ/ガ	2222	02	002202200220220222
		2222	02	00200000022200222

表4 馬瀬・佐藤 (1989)

見出し	語形	新N明全 明日解國 解Kアア	XY 山下 五〇	ABCDEFGHIJKlmnoprs 下下下下下下下下下下 六五五五五五五五五五 二九八八三〇七三三九 五〇九〇九〇九〇
1 荒海	アラウミ/ニ	3333	03	000003000333003302
2 アンバイア	アンバイア/オ	3330	33	333333300003303330
3 石灰	イシバイ/オ	2220	02	000000200200202022
4 オアシス	オアシス/デ	2222	11	111111111122122112
5 老い	オイ/オ	0010	21	222200202002111011
6 驚き	オドロキ/オ	4444	04	0000003003044003
7 思い知る	オモイシル/コトダ	2200	40	444440402004240430
8 女形(劇)	オヤマ/ニ	2122		111111111122211211
9 カーニバル	カーニバル/ガ	1133		111111111311213111
10 キャビネ	キャビネ/ガ	1111	11	111111000001010100
31 無様	フザマ/ダ	1010	10	111111001100001111
32 紅騎	ベニマス/ガ	2202	02	0000000000000200
33 牧歌	ボッカ/ガ	0000		111111110011100010
34 持ち味	モチアジ/オ	2220		222222002022022200
35 明け暮れ	アケクレ	2222		002000200222222222
36 汗みどろ	アセミドロ/ニ	1313	3	303003303300333333
37 熊	クマ/ガ	2222	12	111111222222202222
38 辿る	タドル/コトダ	2222	02	000200220220222222
39 屯する	タムロスル/コトダ	3	303	140110010000000000
40 (弓の)弦	ツル/オ	2222	12	122211212211222222

表3 馬瀬・佐藤 (1989)

- 1 有核型 → 無核型
- 1.1 尾高型 → 平板型
 < 4 → 0 > (4 拍語)
 合礼, 網打ち, 家柄, 家元, 生け捕り, 生けにえ, 忌み明け, 腕づく, 海鳴り,
 大味, 大幅, 大持で, 奥書き, 奥行き, 片腕, 片言, 金づく, 株分け, 裏行き,
 き, 幸先(さいさき), しどころ(がまんの〜), 尻馬, 祝込み, 瀬戸際……
 < 5 → 0 > (5 拍語)
 相手方, 男振り, 細工物, 土用干し……
 < 6 → 0 > (6 拍語)
 お互い様, 算盤づく, まやかし物……
- 1.2 末尾から2拍目にア核のある型 → 平板型
 < 2 → 0 > (3 拍語)
 居場所, 浮き名, 画像, 鴨居, 胡弓, 死相, 死体, 肢体, 姿態, 主権, 白羽……
 < 3 → 0 > (4 拍語)
 雨あい, 後ろ手, 罪状, 惨たん, 実相, 小刀(しょうとう), 粋人, 杉板, 青天,
 滝壺, 谷あい, 中天, 通人, 天空, 得心, 毒へび……
- 1.3 末尾から3拍目にア核のある型 → 平板型
 < 1 → 0 > (3 拍語)
 遺訓, 遺跡, 果敢, 華燭, 佳節, 起伏, 御苑, 居城, 巨木, 巨万, 去来, 規律, 下段
 (げだん), 虎穴, 呼号, 湖底, 湖軒, 小窓(こびん), 市場(しじょう), 死人, 書
 状, 静座, 他面, 多面, 手勢, 登場, バンド(楽隊), ビアノ, ベルト, ボール……
 < 2 → 0 > (4 拍語)
 合鍵, 悪縁, 後厄(あとやく), 雨脚, アマチュア, 有り体(ありてい), 生き馬,
 生き肝, 一言(いちごん), 隔月, 角店(かどみせ), 傷口, 切り妻, 結論, 黒白(こ
 くびやく), 締め金, スエード, スタジオ, スライド, スライド, 添え状, 年波,
 飛び飛び, 捕り物……
 < 3 → 0 > (5 拍語)
 いわくつき, 妻替え, 水死人, 粗悪品, 弱死体, 泊まり番, プルガリア, ホル
 マリン……
- 1.4 末尾から4拍目にア核のある型 → 平板型
 < 1 → 0 > (4 拍語)
 一存, 怪力(かいらき), 戒律, 回顧, 貫禄, 休息, 糾明, 解説, 愚俗, 言論, 恋文,
- 口外, 高禄, 港荷, 財宝, 情熱, 条約, 燭台, 大口, ダイヤル, 大老, 当該, パラ
 ンス, ハンスト, ファースト(野球), フィールド, マウンド……
 < 2 → 0 > (5 拍語)
 紫外線, 市街戦, ……
 < 3 → 0 > (6 拍語)
 消耗品, 水平線, 赤外線, 立会人……
- 2 無核型 → 有核型
- 2.1 平板型 → 頭高型
 < 0 → 1 > (2 拍語)
 益, 歎, 説, 粗茶, 廻璃……
 < 0 → 1 > (3 拍語)
 感知, 関知, 個性, 直訴, 上訴, 書道, 私立, 演歌, 演奏, 直後, 伝播, ラジオ…
 < 0 → 1 > (4 拍語)
 書毒, コンパス, ジグザグ, 焦点, 新参, 体育, 農業……
- 2.2 平板型 → 末尾から3拍目にア核のある型
 < 0 → 2 > (4 拍語)
 尼寺, 脚力, くちぐち……
 < 0 → 3 > (5 拍語)
 傷薬, 口車, 合成酒, 呉服物……
- 3 有核型 → 有核型
- 3.1 尾高型 → 頭高型
 < 3 → 1 > (3 拍語)
 建議, 相模, 駿河, 益議, 栃木, 本義……
- 3.2 末尾から2番目にア核のある型 → 頭高型
 < 2 → 1 > (3 拍語)
 悪意, 彼方(かなた), 決意, 決議, 国技, 此方(こなた), 作為, 竹刀, 支配, 即
 位, 達意, 敵意, 日夜, 北纏……
 < 3 → 1 > (4 拍語)
 一切, おちおち, つやつや, 判断……
- 3.3 その他
 < 4 → 2 > (4 拍語)
 瓜上げ, 茶袋, 突き傷……
 < 3 → 2 > (4 拍語)

表5 『辞典』と『東京ア』との違いからうかがえるアクセント変化の傾向

2. 東京アクセントの地域差

次に東京アクセントの地域差についてお話しします。皆様ご存じのことと思いますが、昔、小林滋子さん（旧姓。現姓は稲垣さん）が、都区内と多摩地区を調査され、『国語学』にご論文が載っています（小林 1961）。

図1は1985年に刊行された『東京都言語地図』の「雲」の老年層のアクセント分布図ですが、都区内は「ク]モガ」、多摩地区は「クモ]ガ」です。きれいな地域差を示しています。「雲」は類別語彙で第3類ですから、当然2型のクモ]の方が古いわけで、東京は「クモ]ガ」から「ク]モガ」に変化したということが読み取れるわけです。おそらく第5類である虫の「蜘蛛」がク]モであったために、それに引かれて都区内でクモ]→ク]モの変化が起きたのではないかと思います。

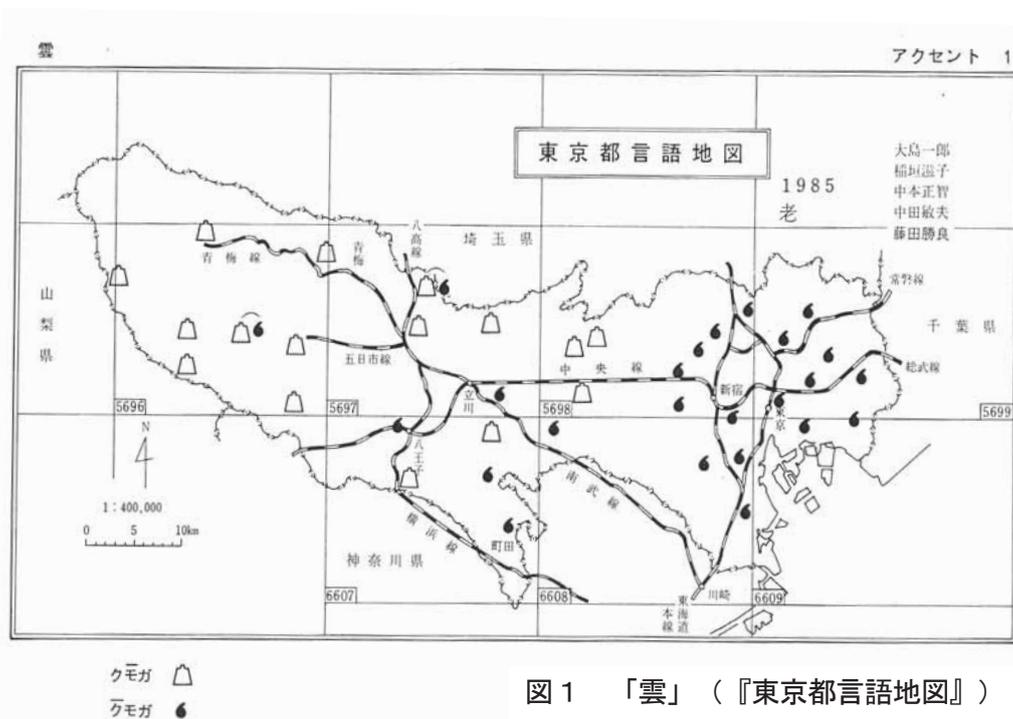


図1 「雲」（『東京都言語地図』）

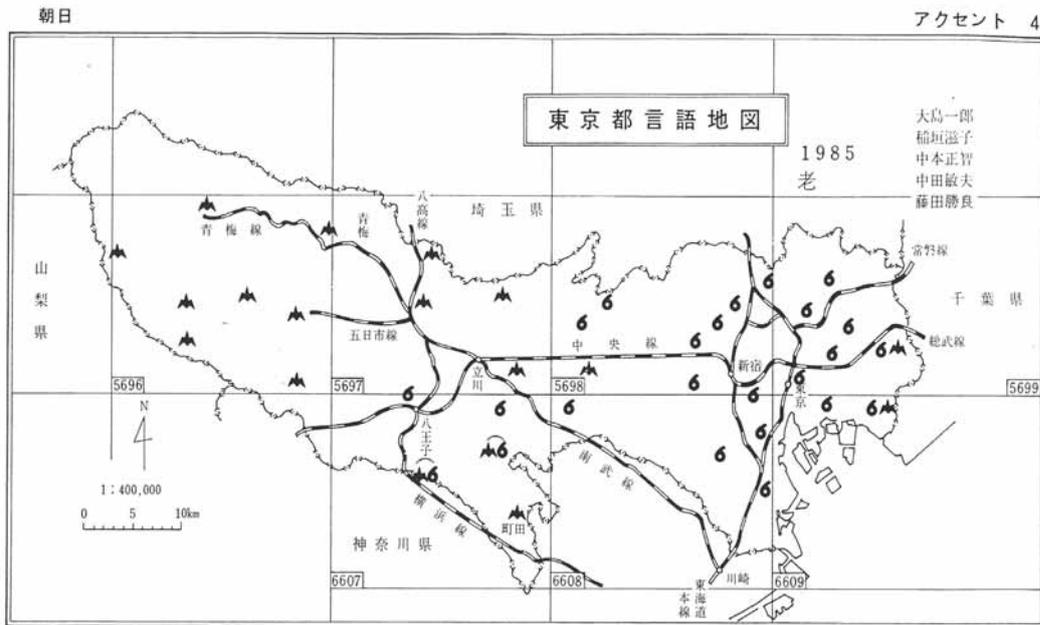
図2の「朝日」は都区内がア]サヒで、多摩地区はアサ]ヒです。秋永一枝先生編『新明解日本語アクセント辞典』（三省堂）にもアサ]ヒは古いと書いてありますから、秋永先生も都区内は昔はアサ]ヒであったということをご認識しておられるわけです。

図3の「命」も都区内はイ]ノチが大部分でイノ]チは多摩地区に多いので、おそらく都区内も昔はイノ]チだったと思います。ただし、『新明解日本語アクセント辞典』には、「命」についてイノ]チが古いという注記はありません。

次は有名な「坂」（図は省略）のサカ]とサ]カの地域差です。下町がサ]カと言われていたと思いますが、『東京都言語地図』では多摩地区がすべてサカ]で、都区内はサ]カとサカ]が混在しています。サ]カが下町と読み取れるかははっきりしませんが、「坂」も都区内はかつてはサカ]であ

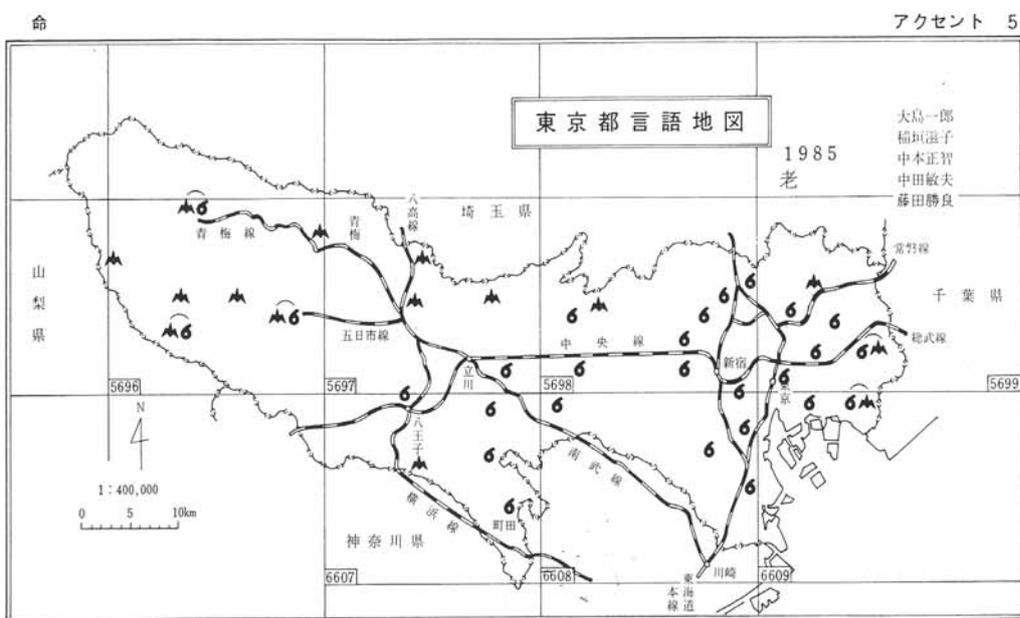
ったと考えてよいのではないかと考えています。いかがでしょうか。

以上にあげた例のように、都区内と多摩地区で地域差の見られるものは、多摩地区のアクセント型が古いと見るべきではないかと私は思っております。



アサヒガ ▲
アサヒガ 6

図2 「朝日」 (『東京都言語地図』)



イノチガ ▲
イノチガ 6

図3 「命」 (『東京都言語地図』)

3. 東京アクセントの地域差と世代差 — 『東京語音声の諸相(3)』 (1993) から

次は東京における「地域差と年齢差」についてお話しします。『東京語音声の諸相』は三井はるみさんや渡辺喜代子さんほかと一緒に調査した結果をまとめた科研費の報告書です。都区内は下町の浅草、多摩地区は五日市町（現あきる野市）で約 200 の単語について、若年層（中学生）、中年層、高年層、それぞれ約 30 名ずつ調査いたしました。

この結果も全体的に見ると、やはり従来言われているように多摩地区に古いアクセントが残っています。例えば「いたち」（図 4）をごらんください。ここに書いてある「日」「神」「寺」は戦前の辞典です。「日」は山田美妙の『日本大辞書』（1892）、「神」は神保格・常深千里『国語発音アクセント辞典』（1932）、「寺」は寺川喜四男・日下三好『標準日本語発音大辞典』（1944）ですが、これらは全部 3 型です。

戦後の辞典はさきほど引用した 4 種の辞典で、「新」は『新明解国語辞典』第 3 版（1981）、「N」は NHK 編『日本語発音アクセント辞典』第 15 刷（1974）、「明」は『明解日本語アクセント辞典』第 2 版（1981）、「全」は『全国アクセント辞典』第 20 版（1979）です。これらの辞典を見ると、戦後の辞典にやっと 0 型が出てきますから、3 型から 0 型への変化ということになりますが、私どもの調査でも都区内はほとんど 0 型になっています。高年層も 0 型が多く、3 型は高年層の 30% くらいしか発音していません。ところが五日市町になると高年層は古い 3 型が 100% です。ですから、五日市町に古いアクセント型が残っていることは明白です。

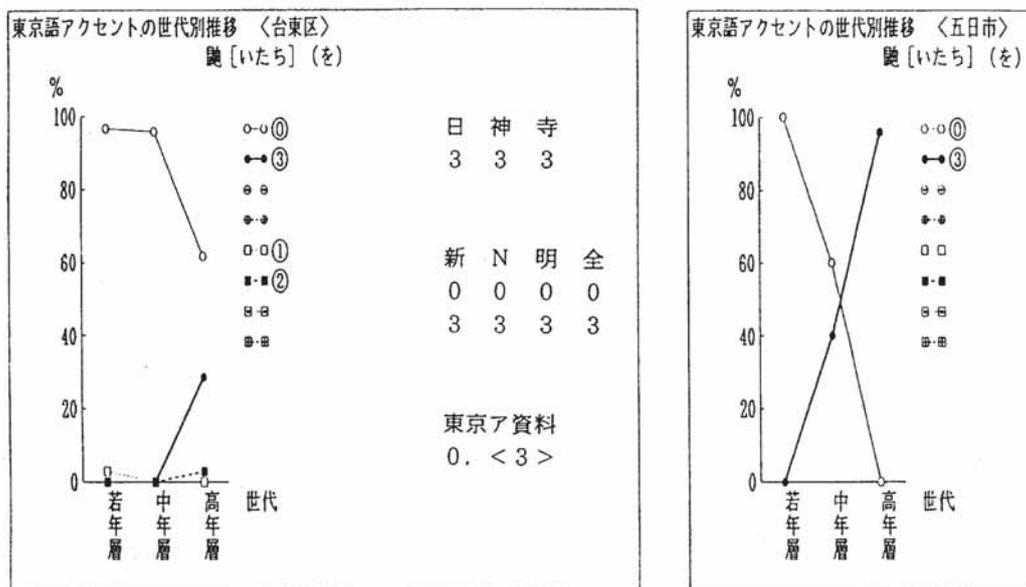


図 4 「いたち」（佐藤・三井・渡辺1993）

「青葉」（図 5）も同様です。アオ]バという 2 型が古いわけですが、都区内は高年層も含めてほとんど 1 型です。しかし五日市町では、高年層の 70% 近くがアオ]バという 2 型に発音しています。

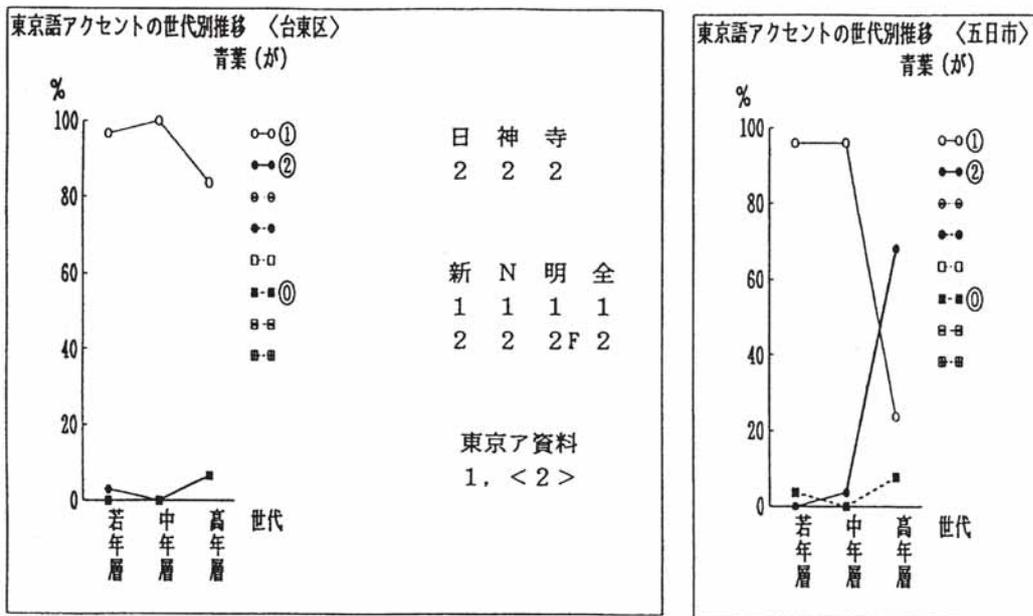


図5 「青葉」 (佐藤・三井・渡辺1993)

「神様」 (図は省略) も都区内では高年層も含めてすべてカ]ミサマという 1 型に変化していますが、五日市町では高年層に 2 型のカ]ミサマが 70% 近く残っています。

このように、全体としては多摩地区に古いアクセントが残っているわけですが、中には例外があります。例えば「ほくろ」 (図6) では、辞典では戦前も戦後もすべて 0 型です。

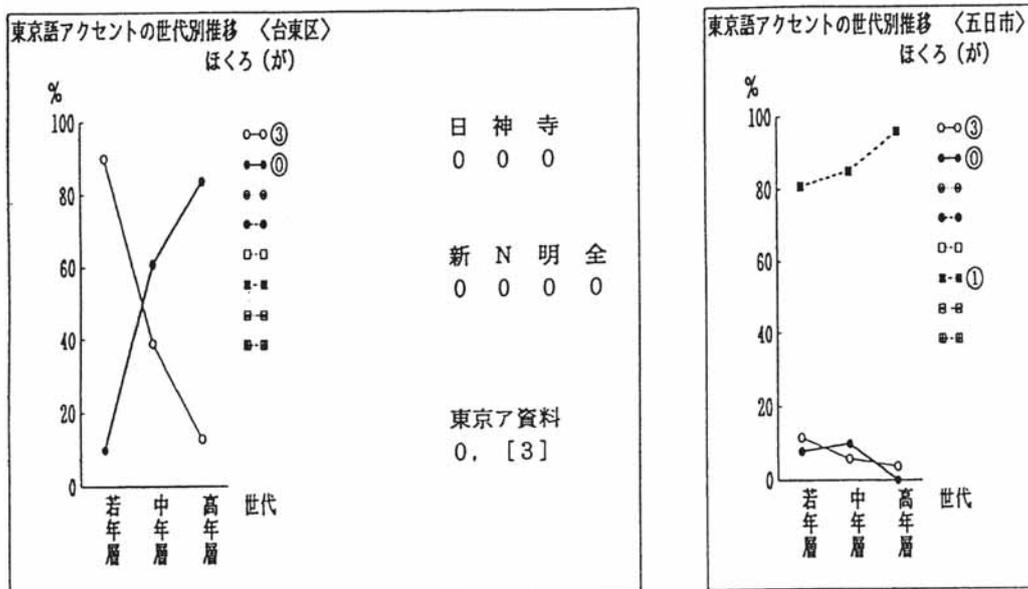


図6 「ほくろ」 (佐藤・三井・渡辺1993)

確かに都区内で高年層は 0 型が大部分ですが、若年層は「ホクロ]ガ」という 3 型に変化しています。ところが五日市町は、東京の古い 0 型も新しい 3 型も、まったくと言っていいほど出てきていません。すべての世代で大部分がホ]クロという 1 型に発音しています。

このような例は多くはありませんが、私どもの調査ではっきり現れたのは「ほくろ」と「柱」です。「柱」（図は省略）も都区内では、0型から3型に変化していますが、五日市町で圧倒的に多いのは2型のハシ]ラです（ただし、五日市町でも若年層は3型に変化しています）。このような多摩地区独特の型は何なのかということが問題です。多摩地区独特の型が東京の古い型であった可能性があるのか、またそのようなアクセント型は関東地方のどの地域に分布しているのかなどは今後の研究課題であると思います。

次にやや特殊な例を紹介したいと思います。

まず、「ハンカチ」（図7）について。五日市町は「ほくろ」のような例外はありますが、若年層（中学生）は東京の若年層と同じアクセント型になっている例が大部分です。「ハンカチ」は、都区内の中年層・若年層の大部分が3型、高年層は0型が約半数です。したがって都区内では0型→3型の変化があったと推定されます。しかし、五日市町では、中学生も含めて全世代の多くが東京の古い型と推定される0型に発音しています。なぜでしょうか。もしかすると中学生のハンカチ自体の使用状況と関係があるのではないかと考えたりしています。

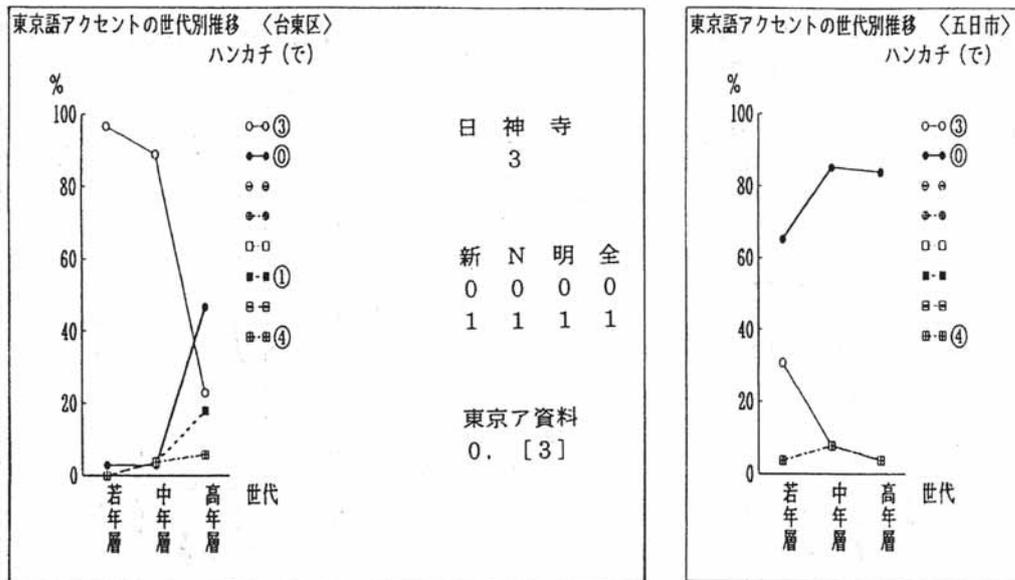


図7 「ハンカチ」（佐藤・三井・渡辺1993）

次は「ライオン」（図は省略）について。「ライオン」は先ほど申し上げたように、ラ]イオンという1型が古いわけです。しかし、都区内では1型はほとんど消滅し、大部分が0型になってしまっています。それでは五日市町に古いラ]イオンが残っているかというところとまったく残っていません。都区内と同じ状況です。その理由ですが、私の推定では、五日市町は都区内からかなり遠く、明治・大正時代の人々が動物園に行く機会はほとんどなかったし、テレビもラジオもない時代ですから、五日市町の人たちが「ライオン」という言葉を耳にするようになったとき、つまりラジオ・テレビなどが普及したところには、すでに東京は0型に変化してしまっていたために、五日市町の人たちが古いラ]イオンという1型を耳にする機会はなかったし、そもそも「ライオン」ということば自体を日常生活で発音する機会が少なかったのではないのでしょうか。その点が「神

様」や「青葉」などとの違いなのではないかと思えます。

「頭」(図8)のアクセントも不思議です。五日市町ではすべての世代が100%近くアタマ]ガという3型です。ところが都区内では3型のほかにアタ]マという2型がかなり見られ、しかも年齢差が見られません。ですから将来、若い人がアタ]マという2型に変化しつつあるかという、そうでもありません。しかし、ゆれていることは事実です。辞典では『明解日本語アクセント辞典』だけが3型と2型を併記していますが、そのほかの辞典は戦前も戦後もすべて3型のみです(『明解日本語アクセント辞典』では「地域的にアタ]マ」と注記しています)。ただし都区内では2型よりも3型がやや優勢で、若い世代で3型が増加しつつあるようにも見受けられます。

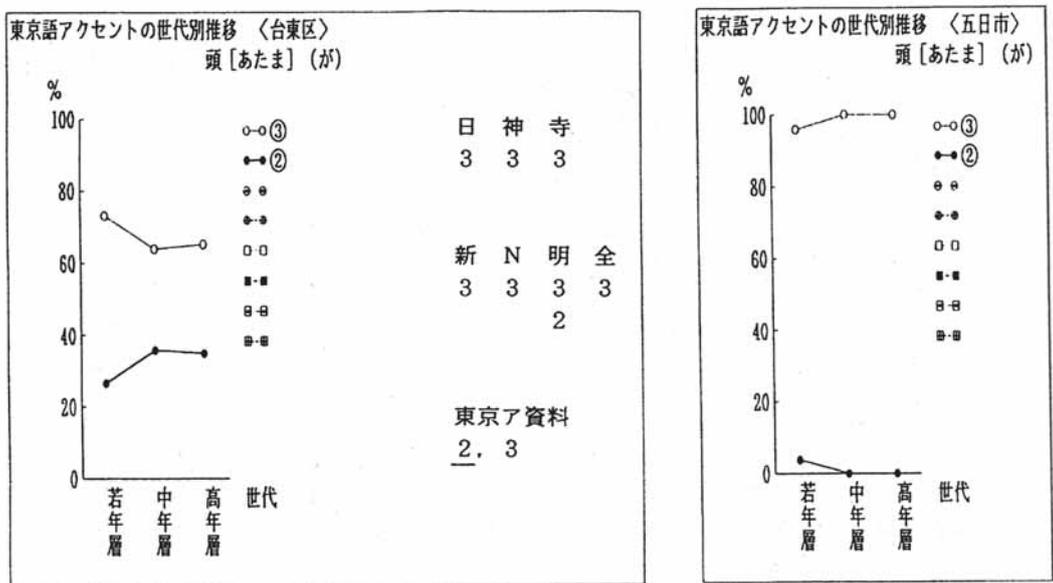


図8 「頭」(佐藤・三井・渡辺1993)

4. 方言アクセントの共通語化（東京アクセント化）

4. 1 名古屋市 1997

次にアクセントの共通語化（東京アクセント化）についてお話しします。

下野雅昭さんが、名古屋のアクセントを『東京語アクセント資料』の単語を使って 1997 年に調査しています。その結果は、大局的に言うと、若い人は東京アクセント化しています。例えば「熊」は年配の方は 100%「クマ]ガ」という 2 型ですけれども、小学生は「ク]マガ」という東京の新しい 1 型に 100%変化しています。

しかし、例外もあります。例えば「つつじ」は、東京ではツツ]ジという 2 型から 0 型（平板型）に変化しつつあります。今では変化が進んで、多く人が 0 型に発音しているかもしれません。

名古屋の場合、高年層は 2 型のツツ]ジが 100%です。それでは小学生が東京の新型である 0 型になっているかということ、そうではありません。0 型はわずか 25%で、小学生の 70%はツツ]ジという 1 型です。中学生は 0 型が 52%で 1 型が 32%です。名古屋では「つつじ」は 2 型→0 型→1 型に変化しつつあるように見えます。実は、関西アクセントが 1 型のツツ]ジなのです。

	項 目	型	小学生	中学生	若年層	中年層	高年層
1	熊（が出た）	0			8	18	
		1	100	96	77	45	
		2		4	23	45	100
2	熊（が出る）	0		4			
		1	100	92	69	36	27
		2		4	46	64	82
3	どんぐり	0			8		
		1	100	92	69	9	
		3		8	15	91	100
		4			8		
4	オアシス	0					9
		1	80	100	92	55	27
		2	15		8	45	64
		3	5				
5	つつじ	0	25	52	15	9	
		1	70	32	15	27	
		2	5	16	69	55	100
		3		4		9	

表 6 名古屋市のアクセント（下野1997）

私は以前調査したことがありますが、名古屋は、年配の方は東京方言の影響、東京の共通語の影響を受けやすく、若い人は関西方言の影響を受けているという結果が出ています。「つつじ」もその例ではないかと思われます。地方のアクセントがすべて東京アクセントに変化しつつあるかということ、必ずしもそうではないわけです。

4. 2 宇都宮市 1984

表 7は無型アクセント（無アクセント）地域の共通語化について、1984年に宇都宮市の中学生を調査した結果です。ちょうど『東京語アクセント資料』が出たころに調査したものです。宇都宮市は無型アクセント地域です。

宇都宮市の中学生 31 名を文の読み上げ、文節言い切り、単語読み上げなど、いろいろな調査法で調査しています。表の数字は 10 点満点で、完全な無型アクセントであれば 0 点、完全な共通語アクセントであれば 10 点を与えています。「山が見える」「風が吹く」のような文の読み上げの例を見ると、31 人の中学生は段階的に、0 点、1 点、2 点、3 点、4 点、5 点、6 点、7 点、8 点、9 点、10 点とさまざまです。非常に個人差が大きいわけですね。調査対象者はすべて宇都

宮市生まれで、両親も宇都宮市またはその周辺の無型アクセント地域生まれ育ちです。

このように非常に個人差が大きいということは、当時の宇都宮市の中学生のアクセントは、共通語化の過渡期にあるということになります。

それでは完全な無型アクセント話者がいたかという、表の話者1の中学生は、「文」「文節」

「比較発話」は0点また

はDで完全な無型ですが、単語読み上げの場合は8点で、満点に近い。つまり東京アクセント的に発音しています。一方、話者31の中学生は、文の読み上げは10点で完全な東京アクセントですけれども、「山が」「風が」のような文節言い切り（の読み上げ）の場合にはわずか4点です。話者31の「比較発話」はCランクです。この比較発話というのは、「山が見える」「風が吹く」のように東京で型の対立がある単語（を含む文）を何度も繰り返して発音してもらったものです。何回発音しても完全に東京アクセントであればA、完全な無型アクセントにはDを与えています。この31番はCで、無型アクセントに近い結果です。

ですから、このときの私の結論は、1984年当時の宇都宮市の中学生は、共通語アクセント化しつつある。しかし、完全な無型アクセント話者もいなかったし、完全な共通語アクセント（東京アクセント）話者もいなかったということになります。しかし、それからもう30年近く経過していますから、おそらく今の宇都宮市の中学生はかなり共通語化が進んでいると推定されます。

4.3 仙台市1983・福井市1982

表8・表9は、宇都宮調査と同じころに仙台市と福井市でおこなった調査です。細かい説明は省略しますが、仙台市の中学生は宇都宮市に比べるとはるかに共通語化率が高いことが分かります。親は大部分が無型アクセントですが、中学生はかなり共通語化しています。実は調査した仙台の中学校は、2割くらいが東京からの転勤族の子供なんです（調査対象者は、すべて仙台市生まれ育ちです）。つまり東京アクセントを持っている子供がクラスの中に2割いるわけです。そこが宇都宮市との違いです。ですから、仙台市の中学生は転勤族である同級生の影響を受けている可能性もあるのではないかと考えています。

話者	読み上げ				比較発話		話者	読み上げ				比較発話	
	文	文節	単語	計	文	文節		文	文節	単語	計	文	文節
1	0	0	8	8	D	D	17	5	2	6	13	A	B
2	0	3	5	8	C	D	18	5	5	6	16	B	C
3	1	3	8	12	D	D	19	5	7	7	19	A	B
4	1	0	2	3	D	D	20	5	9	8	22	C	B
5	1	0	3	4	D	D	21	6	1	3	10	C	D
6	1	0	4	5	D	D	22	6	3	6	15	C	C
7	1	0	5	6	D	D	23	6	7	6	19	C	D
8	1	2	6	9	D	C	24	6	7	9	22	B	C
9	2	0	1	3	B	C	25	6	3	8	17	D	D
10	2	0	0	2	D	C	26	7	5	8	20	B	C
11	3	0	2	5	D	D	27	7	7	8	22	A	B
12	3	1	2	6	D	D	28	7	10	10	27	A	B
13	3	2	2	7	A	C	29	8	3	8	19	B	C
14	3	1	4	8	B	C	30	9	8	7	24	A	B
15	4	1	2	7	B	D	31	10	4	10	24	C	C
16	5	0	6	11	D	D							

表7 宇都宮市のアクセント（中学生）（佐藤1984）

中学生				親			
男		女		男		女	
①	2	①	6	①	7	①	0
②	7	②	9	②	1	②	0
③	8	③	9	③	0	③	0
④	7	④	10	④	1	④	5
⑤	5	⑤	7	⑤	0	⑤	0
⑥	9	⑥	6	⑥	1	⑥	0
⑦	2	⑦	10	⑦	3	⑦	1
⑧	6	⑧	2	⑧	0	⑧	5
⑨	1	⑨	4	⑨	0	⑨	0
⑩	3	⑩	10	⑩	0	⑩	0
⑪	5	⑪	10	⑪	0	⑪	1
⑫	4	⑫	7	⑫	0	⑫	0
⑬	10	⑬	6	⑬	0	⑬	0
⑭	2	⑭	9	⑭	0	⑭	0
⑮	9	⑮	7	⑮	0	⑮	0
⑯	6	⑯	7	⑯	0	⑯	0
⑰	10	⑰	10	⑰	0	⑰	0
⑱	6	⑱	6	⑱	0	⑱	0
⑲	10	⑲	10	⑲	0	⑲	2
⑳	9	㉑	8	㉒	0	㉓	0
㉔	8	㉕	7			㉖	6
㉗	6	㉘	8				
㉙	4	㉚	10				
㉛	5	㉜	9				
㉝	8	㉞	6				
㉟	3	㊱	7				
㊲	10	㊳	10				
㊴	2						
㊵	3						
㊶	9						
平均	6.0	平均	7.8	平均	0.7	平均	1.0

表8 仙台市のアクセント 1983
(中学生とその親)
読ませる調査(短文)の得点(10点満点)

中学生			親			祖父母		
話者	性	得点	話者	性	得点	話者	性	得点
①	m	0	①	m	10	①	f	0
②	m	5	②	m	0	②	f	0
③	m	0	③	f	0	③	f	0
④	m	0	④	m	0	④	m	10
⑤	m	0	⑤	/	/	⑤	/	/
⑥	m	0	⑥	f	0	⑥	/	/
⑦	m	0	⑦	m	0	⑦	f	5
⑧	m	5	⑧	f	0	⑧	f	0
⑨	m	0	⑨	m	0	⑨	/	/
⑩	f	80	⑩	/	/	⑩	f	0
⑪	f	65	⑪	f	5	⑪	m	0
⑫	f	5	⑫	f	0	⑫	f	0
⑬	f	15	⑬	m	0	⑬	m	0
⑭	f	0	⑭	f	10	⑭	f	10
⑮	f	0	⑮	f	0	⑮	m	0
⑯	f	5	⑯	f	5	⑯	/	/
⑰	f	5	⑰	f	0	⑰	m	0
⑱	f	15	⑱	f	0	⑱	f	0
⑲	f	55	⑲	m	0	⑲	f	0
㉑	f	0	㉒	f	0	㉓	f	0
			㉔	f	0	㉕	/	/
			㉖	f	0	㉗	/	/
						㉘	f	0
						㉙	f	15

mは男性、fは女性。なお、話者番号が同一の場合は同一家族であることを示す。/は未調査。

表9 福井市のアクセント 1982
(中学生・その親・その祖父母)
読ませる調査(短文)の得点(100点満点)

ところが同じ無型アクセント地域である福井市の場合は、中学生もほとんどが無型アクセントです(福井市の調査では10点満点ではなく100点満点を与えています。したがって、宇都宮や仙台と比較するためには、表9の数字を10で割る必要があります)。中学生の場合、話者⑩⑪⑲以外はほとんど無型です。つまりこの当時の福井市の中学生は、同じ時期の仙台市や宇都宮市に比べて共通語化していないわけです。

福井市は関西方言圏です。北陸方言は西日本方言圏であって、現在でも関西との交流が盛んで

す。就職なども関西圏への就職率が高い。そのこともあって東京アクセントの影響を受けにくいのではないかというのが私の考えです。それでは関西アクセント化しているかということ、そうでもありません。テレビでは東京アクセントが耳に入ってくるわけです。福井市自体は現在は無型ですが、その周辺には三国式、大野式、今庄式など、体系の大きく異なるアクセントが分布しています。福井市の中学生はさまざまな体系のアクセントと接触するために、なかなか無型アクセントから抜け出せないのではないのでしょうか。

馬瀬良雄先生は、アクセントが東京アクセント化する世代はテレビが普及した以後であるという見事な調査結果を発表していらっしゃいますけれども（馬瀬 1981）、必ずしもテレビの影響だけとは限らないということがこれで分かるわけですね。やはり周囲の環境との関係があるということが分かると思います。

仙台市の中学生は 1998 年と 1999 年にも調査しました（佐藤 2000）。表 8 に示した調査から 15 年経過しています。このときの中学生はほとんど完全と言っていいほど共通語アクセントを示していました。単語別にみても大部分は東京の若い人と同じです。例えば「2 次会」は、東京で昔はニジ]カイ、今の若い人は平板（0 型）です。私も昔はニジ]カイと言っていました。学生と付き合っているうちに、最近では平板型で発音するようになりました。仙台の若年層は全員 0 型です。

しかし例外もあります。「熊」の場合、東京の若年層はク]マという 1 型ですが、仙台では若年層も中年層も 1 型は少なく、大部分は東京の伝統的型である 2 型です。つまり古い型で発音しているわけですね。ですから単語によっては共通語化が遅れるものもある。その理由は今後の課題です。

4. 4 気仙沼市 2006

表 10 は宮城県の気仙沼市で、2006 年に 3 拍名詞のアクセントについて、高年層、中年層、若年層、高校生を調査した結果のうち、高校生の調査結果です。表の右側に「方」と書いてあるのが伝統的方言アクセント型、つまり気仙沼の高年層の大部分が発音している型で、「共」というのは現在の東京アクセントです。「共」は『新明解国語辞典』第 6 版に記載されているアクセントです。この辞典は東京の新しいアクセント型も載せています。数字はパーセントで、点線の左側は「桜 咲いた」のように助詞を付けない文を発音したときのアクセント、点線の右側は「桜が咲いた」のように助詞を付けた文を発音したときのアクセントです（東北方言は格助詞の「が」や「を」は使用しないので、助詞の「が」や「を」を付けた文を発音すると共通語アクセントが出やすいことが分かっています）。太字の数字は、それぞれの単語について、最も多く発音されたアクセント型の割合です。

表を見ると、方言アクセントと共通語アクセントの型が異なる場合、共通語アクセント型の出現率が方言アクセント型の出現率よりも高い単語が多いことが分かります（「朝日」「姿」「紅葉」「兎」「狐」「雀」「背中」「鼠」「蚯蚓」「葉」「鯨」「便り」「後ろ」など）。

しかし例外もあります。「頭」は、先に述べたように東京はアタマ]（3型）とアタ]マ（2型）にゆれています。しかし、高校生は方言アクセントと同じ3型が大部分です。「団扇」は、東京はウチ]ワという2型ですが、気仙沼の高校生は2型をほとんど発音していません。伝統的方言アクセントの3型を半分残し、半分は別の方向、0型に変化しています。

以上、いろいろな地域を見てきましたけれども、すべての単語が共通語化するわけではないということが分かるわけです。

5. 関東地方のアクセントと東京アクセントとの関係

最後に東京女子大学の私のゼミの学生が群馬県前橋市の高年層調査し、『東京ア』と比較した結果を紹介します（中村2002）。『東京ア』から1,263語を選び、大正時代に前橋市で生まれ育った方3人を調査しています。

その結果、181語は東京の古い型と一致している。これは当然ではありますが、『東京ア』を見ると、例えば「しぐさ」は東京では3型から0型に、「誓い」は2型から0型に、「御輿」は1型から0型に、「八重歯」は0型から1型に変化しています。しかし前橋のお年寄り、すべて東京の古い型で発音しています。このような例は非常に多く見られます。

「阿呆」（1→2）「細工」（3→0）「座禅」（2→0）「大豆・離婚・列車」（1→0）「ラジオ」（0→1）「コンパス」（0→1）「ニコチン」（2→0）「バクテリア」（3→0）などのように、漢語や外来語も東京の古い型（矢印の左側の型）で発音しています。

さらに興味深いのは、東京アクセントには昔も今も見られない前橋独特の型が110語（調査語

	0型	1型	2型	3型	共	方				
桜	90	100	0	0	10	0	0	0	0	
煙	95	100	0	0	5	0	0	0	0	
頭	10	0	0	0	5	0	85	100	23	3
鏡	15	5	0	0	10	5	75	90	3	3
刀	25	10	0	0	0	0	75	90	23	3
仏	40	60	0	0	0	0	60	40	03	3
男	20	5	0	0	0	0	80	95	3	3
団扇	50	50	0	0	5	5	45	45	2	3
鉄	5	5	0	0	25	10	70	85	3	3
朝日	0	0	50	90	50	10	0	0	1	2
胡瓜	0	10	0	35	100	55	0	0	1	2
心	40	15	0	0	0	0	60	85	23	3
姿	0	10	50	80	50	5	0	5	1	3
涙	0	10	35	84	60	0	5	5	1	3
枕	20	15	25	50	25	10	30	25	1	3
油	50	75	0	0	5	0	45	25	0	3
柱	30	25	0	0	5	0	65	75	03	3
紅葉	0	0	50	95	45	5	5	0	1	2
兎	80	95	0	0	15	0	5	5	0	2
狐	63	95	5	0	32	0	0	5	0	2
雀	60	89	0	0	30	0	10	11	0	2
背中	70	95	0	0	30	5	0	0	0	2
鼠	70	90	0	5	30	5	0	0	0	2
蚯蚓	75	95	0	5	25	0	0	0	0	2
苺	70	80	0	20	20	0	10	0	10	2
葉	50	85	0	5	45	5	5	5	0	2
鯨	70	95	0	5	20	0	10	0	0	2
便り	10	15	40	75	40	5	10	5	1	2
後ろ	60	90	0	5	10	0	30	5	0	3
卵	10	0	0	0	86	100	5	0	02	2

表10 気仙沼のアクセント2006年調査

（高年層22名・中年層16名・若年層14名・少年層（高校生）20名）

全体の8.7%)認められたことです。例えば「欠伸」「瓦」「牧場(まきば)」「学費」「花瓶」は、東京は昔も今も0型ですが、前橋の高年層は3人とも1型です。「蛙」「紅葉」「反吐」「法螺」などの0型も東京では昔も今も存在しない型です。

「中学校」は東京ではチュウガ]ツコウという3型ですが、前橋は古いも若きもチュ]ウガツコウだそうです。神奈川県もそうだという今日のご発表がありました²、前橋独特の型の多くは、現在の前橋の若い人もお年寄りと同じ、東京アクセントとは違う型で発音しているそうです。

このような前橋独特のアクセント型は何なのか、この中には東京でも昔使っていたアクセント型があるのではないかなど、関東地方のアクセント分布と東京アクセントとの関係については、今後の研究課題であると思っています³。

東京アクセントには見られない規則性が前橋アクセントに認められるケースもあります。東京は「1月」「2月」「4月」「6月」「7月」「8月」は、「イチガツ]になる」「ニガツ]になる」のように、「ツ」にアクセント核があるマイナス1型ですが、「3月」「5月」「9月」は1型で例外です。しかし、前橋では、イチ]ガツ、ニ]ガツ、シ]ガツ、ゴ]ガツ、ロク]ガツ、ジュウイチ]ガツ、ジュウニ]ガツのように、すべて「ガ」の前が下がるマイナス3型だそうです。

ただ私の観察では、最近東京で、ニ]ガツとかシ]ガツと言っている若い人が増えているように思います。そうであれば、月名のアクセントは、東京でも前橋と同じような規則的な方向に変化しつつあるということになるわけです。

6. 東京・首都圏アクセント研究の今後の課題

以上、東京のアクセントや東京アクセントと地方アクセントとの関係について、私どもの調査結果を中心にお話をしました。その結果を踏まえて、私が今後皆さんにやっていただきたいと思っている東京・首都圏アクセントの研究課題を述べたいと思います。

(1) 東京アクセントの変化の方向の体系的把握

この点に関しては三つの希望を申し述べます。

一つは『東京語アクセント資料』に記載されている1万2,800語が、どういう方向に変化しているかということの徹底的な分析です。今日はごく一部の単語について分析した結果をお見せしましたが、これをこのプロジェクトでやっていただけるとありがたいと思っています。『東京ア』は最近エクセルに入力して公開されましたので⁴、パソコンを使った統計的な分析が可能ではないでしょうか。

二つめは形容詞・動詞の活用形の変化の動向です。『東京ア』は動詞・形容詞は終止形と連体

² 坂本薫「神奈川県小田原市方言のアクセント」。本報告書第2部に「小田原市方言のアクセントの古相について」として所収。

³ 中村(2002)の末尾には次の「注記」がある。「『中学校』は1型を前橋市独特の型としたが、この1型は『明解日本語アクセント辞典』(第2版)に「古いアクセント型」として3型とともに記載されている。(中略)この「中学校」の1型も前橋アクセントの古態性を示す例と言えよう」

⁴ 「首都圏言語」プロジェクトポータルサイト(http://www.ninjal.ac.jp/shutoken/4_summary.html)で公開。本報告書第3部「首都圏の言語の実態と動向に関する研究」成果公開サイト紹介(三井はるみ)参照。

形しか調査していません。他の活用形についてもぜひ調査・研究を進めていただきたいと思います。形容詞については最近、今日のご発表を含めて三樹陽介さんほかいろいろな方が研究しているようですが、動詞・形容詞の活用形の変化に関してはさらに体系的な変化の方向を把握する必要があると思います。

三つめは現在の東京の若年層のアクセントの調査です。『東京ア』の最若年話者は1962年生まれですから、現在50歳になっています。1982年の私どもの調査から30年経過した現在の東京アクセントの実態を知りたいものです。『東京ア』の1万2,800語全部とは言いませんが、20歳台だけではなく、現在の小・中学生のアクセントを調査すると、その後の変化の状況が見えてくるのではないかと思います。

(2) 東京アクセントが大きく変化した時期の推定

東京アクセントが変化した時期について、私は『東京ア』を大ざっぱに見て、関東大震災を境にして変化している単語が多いということを描したことがあります。しかしこれはかなり主観的・直感的な判断であり、客観的な分析をしているわけではありません。ぜひ統計学的手法を使って分析していただきたいと思います。

さらに調査語を200語とか300語に絞って、都区内の各世代500人程度を調査すれば、東京アクセントが大きく変化した時期が浮かび上がってくるのではないかと思います。

(3) 東京アクセントの古層の把握

今日の話でも触れましたが、東京多摩地域や埼玉県秩父地方、また群馬県・山梨県、さらに千葉県・神奈川県も加えるべきかもしれませんが、東京周辺地域で高年層を調査することによって、東京アクセントの古層とどう関係があるかということが浮かび上がってくると思います。秩父地方については、篠木れい子さんや新井小枝子さんと一緒に調査した資料もあります(佐藤・篠木・新井・篠崎1998)。多摩地域については、あきる野市よりもっと奥の青梅市や檜原村付近などを調査する必要があると思います。

(4) 東京アクセントの全国各地への影響

最後に、いわゆる共通語化、東京アクセントの全国各地への影響ですけれども、先ほど申しましたように、すべての単語が共通語化の方向へ向かっているわけではありません。全国各地の有型アクセント地域での調査と全国各地の無型アクセント地域での世代別調査が必要です。無型アクセント地域については、私は宇都宮市・仙台市・福井市で調査しましたが、四国の愛媛県宇和町周辺や九州の宮崎県などはどうなっているのか。宇和町については、私の国立国語研究所在職中に調査したことがあります。宮崎県などは研究資料があるのかどうか知りませんが、もう少し多くの無アクセント地域で調査してみるべきだろうと思っています。福井市と仙台市が大きく違うように、西日本と東日本では共通語化の程度にかなりの差があることが予想されます。

最後に、今日のご発表⁵にもありますけれども、曖昧アクセント地域の調査です。私は最近、気仙沼市や宮城県北部、仙台から気仙沼にかけての宮城県北部はいわゆる曖昧アクセント地域ですが、この地域を多人数調査した結果、不思議なことに高年層が無型アクセント的で、中年層がより有型アクセント的という結果が出ました。これは常識に反するわけです。つまり、従来は有型から無型に変化しつつある過渡期が曖昧アクセントというのが通説ですから、高年層ほど無型アクセント的というのはこれまでの常識に反するわけです。山口幸洋さんが主張されているように、通説とは逆に、曖昧アクセントは無型アクセントが有型アクセントを獲得しつつある途上にあるという説に合うような結果が、私の調査からうかがえます。ただし、そう断定していいかどうかはいろいろな問題がありまして、今後の検証にお任せしたいと思っていますところです。

質疑応答

司会（三井はるみ） どうもありがとうございました。具体的な調査のデータを示していただきながら、今後の研究へのご提案もいただきました。それではご質問をどうぞ。

上野善道（国立国語研究所） さっき「朝日」と「命」の例があったんですけど、たぶん複合の違いですね。「朝日」というのは「青葉」と同じパターンなので、「命」の方がおそらく先に変化している。

佐藤 複合のパターンが違うんですね。

上野 ええ。つまり「命」は、もうこれは単純語ですよ。だけど「朝日」は「青葉」と同じタイプで、アサ]ヒはわりと古くまで残っていた。それがあの差になって出ているんだろうと思います。

佐藤 ああ、そうか。ただ、あの分布パターンから見て、イノ]チがやはり東京で古いという推定はどうなのでしょう。

上野 おそらくそれはそうだと思います、私は。

佐藤 おっしゃったのは、分布の状況が違うことがそれと関係してくると？

田中ゆかり はい。それは金田一先生の論文に、命類も古くは2型であった、関東型アクセントとして書かれていますし。それから秋永先生もそのことを書かれているし、大橋先生の調査でも出ているし、私の調査でも出ているから、これはもう確実にたぶん古いんです。

上野 むしろおかしいのは、東京だけが変化を遂げていたんですね。

佐藤 そうですね、そういうことですね。

田中 ツ]ツジ、名古屋の1型の話なんですけど、これはたぶんツツ]ジというのが、「ツ」が無声化して2型になっているのがもともとの東京アクセントで、無声化が弱化して1型が出るというのは東京の中心部でも出ていますし、神奈川県でもたくさん出ているから、名古屋で1型がたくさん出ているのは……

⁵ 亀田裕見「埼玉県特殊アクセントにおける3拍名詞の音調 一久喜市高年層に見られるゆれ一」。本報告書第2部に「埼玉県特殊アクセントにおける3拍名詞の音調 一久喜市高年層に見られるゆれとその解釈一」として所収。

佐藤 関西アクセントの影響ばかりとは言いにくいであろうと。

田中 そう、神奈川から連続的に静岡でツ]ツジが出ているので、アクセントシフトしないものだからシフトするというふうに分いたら2型だけれども、シフトしないと聞いたら1型だから、その点のところは反映されている可能性の方が。

佐藤 東京でもツ]ツジは出るんですか。

田中 出ています。新しい型としてかなり出ていて、神奈川でも大量に出ているので……

佐藤 ああ、じゃあ、無声化の影響も考えるべきであろうと。

田中 はい、それも、考えるべきだろうと。神奈川県から静岡県にかけて無声化が弱化する傾向が徐々に強くなるというご論文が日野資純先生にもあるし、秋永先生は無声化の弱化に加えてアクセントシフトも生じない傾向が強まると指摘されています。自分もやっぱり神奈川とか静岡とかは、無声化が弱化してシフトしない型が多くあらわれるので、東京も含めてその結果ツ]ツジがあらわれている、という方の可能性が高いかな、と思っています。

佐藤 なるほど。必ずしも納得したわけではありませんが、今後検討したいと思います。

上野 基本的に2型というのが嫌われていて、1型になるか0型になるかという、その2つのパターンに大きく分かれていく。

佐藤 そういことですかね。

上野 他の方言を見ていると、そういうのは結構ありそうですね。

佐藤 2型が嫌われる。

田中 佐藤先生がいくつか「地域型」とおっしゃっていたものが、金田一先生が関東アクセントとおっしゃっているものとかかなり重なっていて、やはり古態を示すものが多いと思うんですけども、やっぱりそれでは説明がつかないものとかがイレギュラーで出てくる。それはやっぱり首都圏の中のあちこちにちらほら出てきているので、もともと辞書とかで記録されている、あるいは古態として記録されているものが安定的にその型だったのかといったようなこと自体疑う必要があると思っています。

現在においても安定的にある型に収斂しているのかということ、やっぱり学生たちを調査してみてもちらほらと違うものがあるから、安定的にある型に収斂しているものと、いくつかのものにばらばらと何か……

佐藤 「頭」みたいなものね。

田中 はい。あるんじゃないのかなというのが何か実感。

佐藤 そうなのでしょうね。

田中 それは何の違いなのかはちょっとよく分からないけれども。でも何かそういう、「莓」とか「欠伸」とか「ほくろ」とか「後ろ」というタイプのものがあって、何かこう、ちらほらと頭高みたいなものが出たりしているんですよね。

佐藤 それもある程度人数を調査することによって、変化しているのかゆれているのかというのが分かるわけですね。

田中 はい。常に何かばらばらの状態で移行してきているのか、どこかに収斂する途中なのかみたいなことは、おそらくさつき先生が最後におっしゃった中心部の多人数調査みたいなこと

をやるとはっきりしてくるんじゃないかなと。

佐藤 まあ、なじみ度とか、いろいろな問題が出てきますよね。

田中 はい。

司会 今話題になったイ]チゴというアクセントとか、最後に取り上げられたイチ]ガツ、ニ]ガツ、シ]ガツという月の名前のアクセントですけれども、これはこのプロジェクトでちょっと首都圏の大学生のアクセントを調べたものがありまして、そうしますと、ニ]ガツはもう使う人の方が圧倒的に多いです。

佐藤 そうですよ。かなり上の方、中年層くらいまで言っているということですね。

司会 大学生だと 8 割出たと思います。イ]チゴについては、そんなに使用者は多くないんですけれども、もともと群馬や新潟では使われていたものだと思うんですけれども、埼玉や東京の北部くらいまでは、聞くことがある、という割合が高いんですね。それより南になると、聞かない、になるので、やっぱり何かの接触が生じていて、東京のものが周辺に波及するという以外に、周辺から接触で取り入れられるという方向も、田中さんは首都圏西部について指摘していらっしゃるけれども、あるのかなと考えています。

田中 助数詞付きのものは、助数詞の直前のところで下がる、みたいな単純な規則に結構収斂しているっぽいところはある。このことは、いろいろな人がいろいろな調査データで言ったりしているので、やっぱり何か簡単なルールの方に向かっていっているんだろう、みたいな感じがありますね。

司会 簡単ルールになるときも、それから中高が解消していくのも、何か一語一語伝播みたいな形で変わっていくのか、やっぱりルールのようなものが何かある時点で受け入れられるのかということも知りたいなと思っています。

すみません、まだご質問があるかもしれないですけど、最後にもう少し時間が取れるかと思しますので。どうもありがとうございました。（拍手）

引用文献

秋永一枝編（2001）『新明解日本語アクセント辞典』三省堂。

小林滋子（1961）「三多摩方言アクセントの推移」『国語学』46, 27-41.

佐藤亮一（1983）「福井市、および、その周辺地域のアクセント—調査法と型の区別の現れ方との関連を中心に」『国語学研究』23, 86-68.

佐藤亮一（1984）「無型アクセント地域におけるアクセントの共通語化—宇都宮市における小調査の結果から—」平山輝男博士古稀記念会編『現代方言学の課題 第2巻』明治書院, 211-234.

佐藤亮一（1988）「福井市およびその周辺地域におけるアクセントの年齢差, 個人差, 調査法による差」国立国語研究所報告 93『方言研究法の探索』三省堂, 123-219.

佐藤亮一（1990）「現代東京語のアクセント年齢差および辞典との差を中心に」佐藤喜代治編『国語論究 2 文字・音韻の研究』明治書院, 204-239.